

〔解説〕 つながりの拠点、学び合いの土台

北九州市立男女共同参画センタームーブ（以下ムーブ）の事業と活動を考える際、ここでは市民との「つながり」を強く意識されていることがわかる。

「男女共同参画センター」という言葉から、主な利用者は女性というイメージが持たれがちだが、講義にて大島氏からも説明がなされたように、ムーブでは男性を対象にした講座や、高校生・大学生に向けた講義も積極的に行っている。日常生活上のニーズに着目することで、性別や世代にとらわれないすべての人がムーブによる支援と学びへつながる機会に取り組んでおり、そのことは情報誌や冊子の発行、またSNSを利用した情報発信からもうかがえる。

またムーブでは、男女が共に参画し社会活動を行っていくための仲間づくりに役立つ団体・グループの情報を収集し、仲間づくりや交流を希望している市民との橋渡しも行っている。学ぶ・相談するだけでなく、その先へのつながりを構築できる場所としても機能している。

地域実習にて学生が参加する「ムーブフェスタ」は、このつながりを表す最も大きな取組のひとつといえるだろう。市民企画事業を主体として開かれるこのイベントは、市民が市民のための催しを参画する、積極的な地域活動といえる。また、市民の視点で開かれる企画は、地域住民が気軽にムーブへアクセスする「きっかけづくり」の機能を持つ点としても、大きな意味を持つだろう。市民と市民とのつながりが、市民とムーブとのつながりを生んでいる。ムーブフェスタによって「男女共同参画センター」が地域にとって身近な存在となることは、市民がジェンダー問題や地域課題への意識を持つための土台となることが期待できるといえよう。

さらにムーブフェスタでは、指定管理者が公益社団法人アジア女性交流・研究フォーラム

（以下KFAW）の主催によるイベントも設けられ、海外との交流も行われる。

以上から、市民の支援・学びへのつながり、市民と団体とのつながり、そして市民同士でのつながり、さらには海外とのつながりの拠点として、ムーブは存在しているといえるだろう。

これらを可能としているのは、ムーブをはじめKFAWが独自に行ってきた調査研究による学術的基盤と、学び合いや交流によるつながりが継続して行われてきたからではないかと考えられる。大島氏からの説明のとおり、「女性たちが自主的に学び、取り組むことで、状況の改善に向かった実績と下地を持つ町」であることは、北九州市での男女共同参画および市民団体の特徴を理解する上で欠かすことはできない。北九州市では、能動的な学び合いやつながりが課題解決に向かう力を持った実績があり、こうしたボトムアップ型の運動を可能とする環境があるといえるだろう。

学生は、事例のモデルともいえる実習先にて「現在どのようなことが問題で、そのために何をすべきか」を課題に取り組むが、同時に、実施されている取組について、いかにしてこのような運営がなされ、継続されているのかを分析することも求められる。またいずれの地域およびコミュニティをかたちづくる要素として「つながり」の視点なしに理解を深めることはできないだろう。

「ムーブフェスタ」および北九州での実習を通して、市民が主体となって活動するために、土台としてどのようなつながりが意識されているか、そしてそれらをどのように活かし継続されてきたのかを検討することが、市民の「参画」について理解を得る機会となるだろう。

（塩月 真布由）